

# リーベル通信



発行責任者：NPO 法人八女地区障害者相談支援センターリーベル

住所：八女市本町 17-2 電話：0943-22-2610 Fax：22-2664

Email liber-yame@marble.ocn.ne.jp URL <http://liber-yame.net>



平成 28 年度がスタートしました。行政やリーベルもスタッフの入れ替わり等があり、新たなメンバーとなりましたが、変わらず皆様の「こまったなあ」を一緒に考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 《ご挨拶》

NPO 法人 八女地区障害者相談支援センター  
理事長 西原洋文

平成 28 年度を「リーベル」では新しい体制で迎える事になりました。

2 名が退職されました。まず、平河さん。2 年間 3 障害の中でも対応が難しい精神を担当して頂きました。その間、私個人も知人の事で相談したことがあり、接し方を教えてもらいました。まだ若いので何かしらの形で会える事を楽しみにしています。それから田島さん。「リーベル」発足以前から八女地区の障害者相談支援の中心であり、田島さんありきで「リーベル」がスタートしたと言っても過言ではありません。しかし、新たに同様の仕事につかれるとの事なので、ここは気持ちよく送り出したいと思っております。かわりに NPO 以前に在籍していた井手口君が帰ってきてくれました。まだ若く相談支援に対する情熱があるので大いに期待しています。

現在、相談件数も増えており、しかも当面 1 名減体制で不安もありますが 27 年度で一区切りついた計画相談スタッフも含め「リーベル」の根幹である「基本相談」を利用される方の立場に立ち、丁寧な対応をすることで障害のある方々に信頼される場所を目指していきましょう。理事会も現状を把握し体制強化に向けて後方支援を行っていきます。



## よろずや 「よい万事屋志向で」

センター長 永田啓造

新年度を迎え、取り組みの方向性について考えてみました。私たちの地域でも、多様な生活課題を抱えた人たちが増えているのを実感しています。

ここで、私たちは原点に帰って支援のあり方を見直す必要があるのではないのでしょうか。

40 年ほど前の何もなかった時代は、当事者の人たちが支援者とともに新しいものをつくってきました。今は多様な機関が開業し、当事者をお客様として迎えています。

そこでは、制度が定めたサービス基準のみの提供がなされ、事業所経営の理念が優先しがちです。そのようなサービスのあり方は、当事者の生活課題の解決という使命に答えて行けるでしょうか？

相談援助職の役割には、環境（サービス）との連絡調整やカウンセリングという機能が一般的に知られていますが、それに加えてサービスの開発というものがあると思っています。それは当事者の皆さんとともに進めていくことが大切であると思います。改めて、障害を持つ当事者やその家族の皆さんとともに相談援助を進めていきたいと思っております。



# 市町村の福祉窓口担当者をご紹介します

## 八女市

【しょうがい者福祉係】



## 黒木支所

【生活福祉係】



## 矢部支所

【市民生活福祉係】



## 上陽支所

【市民生活福祉係】



## 広川町

【福祉係】



## 立花支所

【生活福祉係】



## 星野支所

【市民生活福祉係】

| 平成 28 年度出張相談日程  |   |
|-----------------|---|
| 広川町 (役場) …第2火曜日 | 6/14、7/12、8/9、9/13、10/11<br>11/8、12/13、1/10、2/14、3/14       |
| 黒木町 (支所) …第3火曜日 | 5/17、6/21、7/19、8/16、9/20、10/18<br>11/15、12/20、1/7、2/21、3/21 |
| 矢部村 (中央公民館)     | 7/8、11/11、3/10  |
| 星野村 (そよかぜ)      | 5/20、8/19、11/18、2/17  |

# ～分科会報告～

## 相談

### 障害者視点から見た福祉 ～共生活感と人権配慮も考える～



平成28年2月5日(金)、相談支援専門員とサービス管理責任者による合同研修会を開催しました。講師に佐賀大学名誉教授であり、久留米リハビリテーション病院福祉施設準備室長の齊場三十四先生をお招きして講演いただきました。

齊場先生は両下肢障害により松葉杖を利用されています。当事者の立場として感じてこられた福祉の在り方について、率直なご意見、時に厳しいご意見がありました。「支援者が良かれと思ってサービスを提供していないか。親切の押し売りでは…」等々。日頃の仕事の在り方を考えるよい機会になりました。

## 就労・教育

### 当事者が地域で働き続けるために… ～お仕事は楽しいぞ～



2月26日に就労・教育合同分科会を開催しました。今回は筑後特別支援学校から(株)お茶村に就職された入部恵輔氏、筑後特別支援学校久保田教諭、(株)お茶村大石副社長、就業・生活支援センター「デュナミス」服部氏に登壇して頂き、在学中からの取り組みや就職、現在に至るまでの様子や当時の思いについて対談形式で話をして頂きました。対談の中では、筑後特別支援学校で取り組まれているモーニングトレーニング社で培われた挨拶力が採用の決め手になったことやコミュニケーション力を高める為に週1回デュナミスで懇談をしていること、仕事の様子、職場での取り組み等について余すところなく話をして頂きました。(株)お茶村では入部さんを採用したことで職場の雰囲気も穏やかになり、彼の笑顔、挨拶が他のスタッフに良い影響を与えているそうです。就職したら終わりではなく、就職後も企業・学校・関係機関と連携をとりながら支援していくことこそが就労継続のポイントです。

アンケートでは「支援についてとても勉強になった」「当事者と職場の人の生の声を聞くことが出来て良かった」「支援機関の連携がとても大事だと思った」という声を多く頂きました。障害のある方々も目標を持って生き生きと働くことのできる職場が増え、誰もが安心して暮らすことのできる地域になるよう、今後も取り組んでいければと思います。

平成28年3月21日(月)

### 八女地区障害児保護者連携協議会研修会を開催しました!



今回の研修会では映画「みんなの学校」の上映会と木村泰子先生の講演会を行いました。当日は約300名の方に来て頂きました。八女市・広川町以外の地域からも沢山の参加があり、中には県外から来られた方もいました。講演会では木村先生の熱く、直球の思いを聞くことが出来ました。アンケートでは映画、講演ともに「とても良かった」という言葉を多く頂き、嬉しい限りです。そこでアンケートに記載されていた感想について少しご紹介させて頂きたいと思います。

<映画「みんなの学校」について>

- ・支援が必要な子だけでなく、全員が一つになってみんなで成長していく…理想の学校だと思いました。
- ・自分の子供時代に今思えば障害があったのだろうな、という子があたりまえのように(普通)クラスにいた事をこの映画をみて思い出しました。(〇〇君はこうなんだ～と自然に受け入れていたし、できないこともクラスの皆でフォローしていました)学校の道徳の授業で流して子供たちにも是非みてもらいたい作品ですね。

<木村先生の講演会について>

- ・目の前に課題がいっぱいある中で、自分には何が出来るのだろうか、と考えながら聞かせてもらいました。いっぱい悩みながら自分に出来る事をやっていきたいです。
- ・映画のままのパワフルな方だと感じました。「障害だけにとらわれず、その子を見る」という言葉は深く胸に残りました。
- ・もう少し時間をかけてゆっくりと話を聞きたかったです。「教師がレッテルを貼って子どもを見ている現状があるのでは」という先生のお言葉はその通りだと思いました。



